

三間地域の田んぼにコスモスの種をまく児童



宇和島の三間地域を満開のコスモスで彩ろうと、地元3小学校の児童約50人が6日、宇和島市三間町成家の田んぼ

で約3万本分のコスモスの種をまいた。コスモスは旧三間町の町花だった。住民らでつくる花満開プロジェクトのみま実行委員会（松浦友昭会長）が2012年から種まきを実施してきた。11月3日には「コスモスマツリ」の開催を

コスモス 一面に咲いて 宇和島・三間地域 児童50人が種まき

予定している。種まきには成妙、三間、二名の3小学校の児童が参加。北宇和高校三間分校の生徒が8月末に約3400平方メートルの田んぼを耕して準備をしていた。

新型コロナウイルス対策として、学校ごとに区画を分けて作業に取り組んだ。田んぼに入った3校の児童たちは「ばらばらとまいたら半歩進む」「目の前で円を描くように」とアドバイスを受けながら、一列になって種をまんべんなくまいていた。

見頃は11月初旬の見込み。成妙小6年の清家大暉君(11)は「広い範囲にうまく種が届くよう、腕を大きく回してまいた。田んぼ一面にきれいに咲いてほしい」と期待していた。(長尾翼)